ロームシアター京都
2018年度(平成30年度) 自主事業ラインアップ

ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
2018（平成 30）年 3 月 8 日 報道発表資料

［本リリースに関するお問合せ先］
ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
担当：松本、長野
電話：075-771-6051（9：00 ～ 17：00）FAX:075-746-3366
E-mail:press@rohmtheatrekyoto.jp　https://rohmtheatrekyoto.jp/

ロームシアター京都 2018 年度（平成 30 年度）自主事業ラインアップ

演劇
市民寄席 ……2
能の世界へおこしやすー京都薪能鑑賞のためにー
『HANGMEN（ハングマン）』……3
ミュンヘン・カンマーシュピーレ『NŌ THEATER』……4
地点 『忘れる日本人』……5
能楽チャリティ公演 ～被災地復興、京都からの祈り～ ……6
シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 vol.2 能楽『鷹姫』……7
レパートリーの創造 木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』（仮）……8
第４回 全国学生演劇祭 ……9
MONO『タイトル未定』

舞踊
『芒の植え付け』『踊り場・叩き場 / 田中泯 meets 中村達也』……10
ロレーヌ国立バレエ団　トリプルビル ……11
笠井叡振付『高丘親王航海記』……12

音楽
京都市交響楽団　京都 発見！クラシック Vol.8……13
京都岡崎音楽祭 2018 OKAZAKI LOOPS
タンブッコ・パーカッション・アンサンブル コンサート＆ワークショップ（仮）
現代芸術の会＝音楽の現在　音楽、言葉、表現が競い合うコンサート
平成 30 年度 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演『魔笛』全２幕 ……14
京都オペラ協会定期公演 ベッリーニ作曲『カプレーティ家とモンテッキ家』全２幕
京響クロスオーバー「バレエ × オーケストラ」……15
小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅩⅦ　京都公演 ……16

総合
KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2018……17
ロームシアター京都 × 京都芸術センター U35 創造支援プログラム “KIPPU”

参加する劇場へ
プレイ！シアター in Summer……18
アクラム・カーン振付『Chotto Desh』
ロームシアター京都 × 京都市文化会館５館連携事業
地域の課題を考えるプラットフォーム CIRCULATION KYOTO ー 劇場編（仮）……19,20
ロームシアター京都　リサーチプログラム ……21
「いま」を考えるトークシリーズ
ロームシアター京都 × 京都市ユースサービス協会連携事業 未来のわたしー劇場の仕事

ロームシアター京都　賑わいスペース事業 ……22
ロームシアター京都の誕生 ……23

今年度は平成 28 年（2016 年）1 月のリニューアルオープンから 3 年目、劇場のレギュラーシーズンとしては 2 年目を迎えます。
京都に「劇場文化をつくる」ことを目指し、自ら企画に取り組んだ多彩な事業を引き続きお届けします。
洋の東西を問わず、世界水準の優れた作品をお届けすることはもちろん、劇場の財産となる作品のプロデュースや次代を担う芸術家の育成にも、より一層力を入れて取り組みます。また京都のさまざまな施設や団体と連携し、世代・趣味趣向の違いを越えた人々が参加できる多彩なプログラムを通じて、劇場をハブに多様な出会い・交流・対話を生み出します。
こうしたロームシアター京都で生まれる営みが蓄積となり、さらに人々が引き寄せられ、日常的かつ継続的にロームシアター京都に足を運ぶ、あるいは関心を寄せるというサイクルを生み出すことを目指します。

ロームシアター京都

４つの要素と事業の柱

ロームシアター京都の自主事業は、「創造」「育成」「交流」「生活」の 4 つの要素を事業の柱とします。それぞれが独立しているのではなく、ひとつの事業の中に複数の要素を持ち、また、それらの要素が循環して発展していく、有機的なサイクルを形作っていきます。

創造　**これまでになかった多彩な文化芸術に触れる、ともに創る**

育成　**文化芸術がより広く、より深く、浸透する**

交流　**京都と世界がつながる、京都から世界へ広がる**

生活　**多彩な豊かなライフスタイルをともに享受する**

私たちが共有する時間 ―平成 30 年度自主事業の企画にあたって

劇場は建物として物理的に存在するだけではなく、時代の流れの中で様々な人々が行き交う広場である。長期的視野に立った歴史的視座と、世界中を視野におさめた空間的視座の交差する地点が＜いま･ここ＞であり､それを体験できる場が「ライブ」という意味を超えた、本質的な意味での「劇場」と言えるのではないだろうか。
時代を超えて文化を受け継ぐ共同体に属する人々、あるいは同時代に生きる世界中の人々が共有するものとは何か、舞台芸術を通じて考えてみたい。
そのために、古今東西のクラシック（古典）を再訪し、それらが繰り返しレパートリーとして上演されることの意味や、新しい創作にインスピレーションを与える価値を見つめ直していく。同時に､作品と社会の関係や作品を生み出し育むための様々な視点を得ながら、ロームシアター京都ならではの方法を試行錯誤し、劇場が果たすべき役割を見出していく。

プログラムディレクター 橋本裕介

市民寄席 主催

1957 年にスタートし、京都では恒例の落語会として長く親しまれてきた「市民寄席」。幅広い世代に笑いを届ける上方落語の生の迫力と寄席の雰囲気をご体験ください。

露の瑞

笑福亭　鶴二

第 340 回
日程：5 月 23 日（水）19:00 開演
会場：サウスホール

[番組]
「犬の目」露の瑞　　「妙齢女子の微妙なところ」桂あやめ
「祝いのし」笑福亭鶴二　　「高津の富」桂米團治

チケット情報
全席指定　前売 1,800 円　当日 2,000 円
ユース（25 歳以下）1,500 円
[3 月 20 日（火）一般発売開始]

桂　あやめ

桂　米團治

第 341 回 日程：7 月 25 日（水）19:00 開演
第 342 回 日程：9 月 17 日（月・祝）13:30 開演
第 343 回 日程：11 月 27 日（火）19:00 開演
第 344 回 日程：2019 年 1 月 27 日（日）13:30 開演
会場：サウスホール

チケット情報
全席指定
5 月、7 月、11 月回…前売 1,800 円、当日 2,000 円、ユース 1,500 円（前売・当日とも）
9 月、1 月回…前売 2,300 円、当日 2,500 円、ユース 1,500 円（前売・当日とも）

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

能の世界へおこしやす 主催
ー京都薪能鑑賞のためにー

日程：6 月 1 日（金）・2 日（土）各日 14:00 開演
会場：メインホール

京都薪能を通じて能と狂言の世界をお楽しみいただくために、出演者による公開レクチャーを今年も実施いたします。能の謡や囃子、狂言の体験を交えた解説の後に、ダイジェスト版の能も鑑賞していただけます。
出演：京都薪能出演能楽師

チケット情報
全席自由　　料金：無料／京都薪能チケットを持参の場合は申込不要、当該公演のみ参加の場合は要事前申込
（4 月 13 日～ 5 月 24 日まで、京都いつでもコール（661-3755）にて受付）

主催：京都市、一般社団法人京都能楽会、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

【共催公演】第 69 回京都薪能　―悲劇の英雄　義経の生涯―
日程：6 月 1 日（金）・2 日（土）各日 18:00 開演
会場：平安神宮（雨天時：メインホール）

6 月 1 日（金）
金剛流能「橋弁慶」観世流能「烏帽子折」観世流能「船弁慶 前後之替」
6 月 2 日（土）
観世流能「鞍馬天狗 白頭」金剛流能「祇王」観世流能「正尊 起請文 翔入」

チケット情報
全席自由　前売券 4,000 円　ほか
[4 月 14 日（土）一般発売開始]
主催：京都市、一般社団法人京都能楽会
共催：ロームシアター京都
（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

『HANGMEN（ハングマン）』 主催

日程：6 月 15 日（金）19:00 開演
16 日（土）13:00 ／ 18：00 開演
17 日（日）13:00 開演
会場：サウスホール

映画「スリー・ビルボード」脚本・監督でも注目のマーティン・マクドナー最新戯曲

『ウィー･トーマス』(2003 年･2006 年)、『ピローマン』(2004 年)、『ビューティー・クイーン・オブ・リナーン』(2007 年) に続き、長塚圭史が挑む、マクドナーの最新戯曲『HANGMEN』。2015 年 9 月ロンドンのロイヤルコートシアターで幕を開けるとたちまち評判となり、早くも同年 12 月からウエストエンドで上演開始、2016 年ローレンス・オリヴィエ賞「BEST PLAY」に輝いた話題作です。
演出の長塚圭史は、マクドナー作品では、読売演劇大賞優秀演出賞、朝日舞台芸術賞などを受賞、またその斬新で挑戦的な演出は日本演劇界を騒然とさせました。
そこにいる人間の渇望、悪意、不器用な愛情。不吉な訪問者。そして真っ黒なユーモア。 マクドナーをこよなく愛す長塚が、本作品でもその独特な世界観で観客を魅了します。

作：マーティン・マクドナー　　翻訳：小川絵梨子
演出：長塚圭史
出演：田中哲司、秋山菜津子、大東駿介、宮崎吐夢、大森博史、長塚圭史、市川しんぺー
谷川昭一朗、村上航、富田望生、三上市朗、羽場裕一

あらすじ
1963 年。イングランドの刑務所。絞首刑執行人（ハングマン）＝ハリーは、連続婦女殺人犯ヘネシーの刑を執行しようとしていた。しかし、ヘネシーは冤罪を訴えベッドにしがみつき叫ぶ。「せめてピアポイントを呼べ！」。ピアポイントに次いで「二番目に有名」なハングマンであることを刺激され、乱暴に刑を執行するのだった。
2 年後。1965 年。イングランド北西部の町・オールダムにある小さなパブ。
死刑制度が廃止になった日、ハングマン・ハリーの店では常連客がいつものようにビールを飲んでいた。最後のハングマンであるハリーが何か語ることに期待しながら。そこに、見慣れない若いロンドン訛りの男・ムーニーが入ってくる。不穏な空気を纏い、不思議な存在感を放ちながら。
謎の男の訪問をきっかけに事態はスリリングに加速する。

長塚圭史　Keishi Nagatsuka

劇作家、演出家、俳優、阿佐ヶ谷スパイダース主宰
1996 年、阿佐ヶ谷スパイダースを旗揚げし、作・演出・出演の三役を担う。2008 年、文化庁新進芸術家海外研修制度にて 1 年間ロンドンに留学。帰国後の 11 年、ソロプロジェクト・葛河思潮社を始動、『浮標（ぶい）』『冒した者』『背信』を上演。また 2017 年福田転球、山内圭哉らと新ユニット・新ロイヤル大衆舎を結成し、４月に北條秀司の傑作『王将』三部作を下北沢・小劇場楽園で上演。
近年の舞台作品に、作・演出『ツインズ』、『かがみのかなたはたなかのなかに』（出演も）、『あかいくらやみ－天狗党幻譚』（出演も）、『音のいない世界で』（出演も）、演出『十一ぴきのネコ』、『蛙昇天』、『鼬（いたち）』、『マクベス』など。読売演劇大賞優秀演出家賞など受賞歴多数。また俳優としても『あさが来た』(NHK)、『Dr. 倫太郎』(NTV)、『グーグーだって猫である』（シリーズ／ WOWOW)、『yes! －明日への頼り』（ナレーション /TOKYOFM）など積極的に活動。

チケット情報
全席指定　一般 7,500 円　ユース（25 歳以下）5,500 円　［3 月 17 日（土）一般発売開始］

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市
企画製作：株式会社パルコ

ミュンヘン・カンマーシュピーレ『NŌ THEATER』（ドイツ語上演 / 日本語・英語字幕）

主催

日程：7月6日（金）～8日（日）全3ステージ
会場：サウスホール

岡田利規作・演出、ドイツ有数の公立劇場ミュンヘン・カンマーシュピーレによる話題作が待望の来日

ドイツ有数の公立劇場ミュンヘン・カンマーシュピーレにて、日本人演出家としては初めて3シーズンにわたるレパートリー作品の演出を務める岡田利規（チェルフィッチュ主宰）による、2017年2月に発表された作品がついにロームシアター京都に登場します。日本国内での上演はこの京都公演のみとなります。
本作で岡田が取り上げるのは、日本最古の舞台芸術「能」。その様式を用いて、資本主義に飲み込まれている現代日本の姿を描き出します。音楽は、即興演奏を行う現代音楽家・内橋和久が担当します。

© Julian Baumann

私にとって重要なことは、能の形式がきわめて演劇的だということで、その演劇的であることの度合いは、私にとっては、たとえば能が〈日本的〉であることの度合いなどよりずっと大きい。（岡田利規）

翻訳：アンドレアス・レーゲルスベルガー
出演：マヤ・ベックマン、アンナ・ドレクスラー、トーマス・ハウザー、イェレーナ・クルジッチ、シュテファン・メルキ
音楽・演奏：内橋和久　美術：ドミニク・フーバー　衣裳：ペレット・シャード　照明：アンドレアス・レーフェルド
ドラマトゥルク：タールン・カーデ

初演：ミュンヘン・カンマーシュピーレ劇場　2017年2月初演

©Kikuko Usuyama

岡田利規　Toshiki Okada

演劇作家、小説家、チェルフィッチュ主宰
1973年横浜生まれ、熊本在住。従来の演劇の概念を覆すとみなされ国内外で注目される。主な受賞歴は、『三月の5日間』にて第49回岸田國士戯曲賞、小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』にて第2回大江健三郎賞。主な著書に『遡行変形していくための演劇論』、『現在地』（ともに河出書房新社）などがある。2016年よりドイツ有数の公立劇場ミュンヘン・カンマーシュピーレのレパートリー作品の演出を3シーズンにわたって務めている。

ミュンヘン・カンマーシュピーレ

ドイツ語圏で最も重要な劇場の一つ。設立以来、劇場は所属する実力ある俳優（アンサンブル）によって形作られている。2015/2016年のシーズンから芸術監督を引き継いだマティアス・リリエンタールは、社会的・政治的な焦点を当て、審美的に革新的で現代的でコスモポリタンな市立劇場となるべく、常任演出家としてニコラス・シュテーマン、クリストファー・リューピングのほか、岡田利規、フィリップ・ケーヌ、ラビア・ムルエといったゲスト演出家による意欲的なレパートリーを生み出している。

チケット情報

全席指定　一般4,500円　ユース（25歳以下）3,500円［4月14日（土）一般発売開始］

製作：ミュンヘン・カンマーシュピーレ劇場
主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市
助成：ドイツ連邦共和国外務省、ゲーテ・インスティトゥート

地点 『忘れる日本人』 共催

日程：7月18日（水）～21日（土）全4ステージ
会場：ノースホール

黙らない。手離さない。希望なんて言葉では追いつかない。期待と忘却の織りなすリズムにのれ！
京都から彗星のごとく現れた作家・松原俊太郎と地点による2017年の話題作、京都初演

Photo: Hisaki Matsumoto

処女戯曲『みちゆき』（AAF戯曲賞大賞受賞）で鮮烈なデビューを果たした松原俊太郎の長編二作目となる本作は、震災以降の日本社会に対する痛烈な批判でありながら、死者とともにあること、忘却についての哲学的論考を含む大作。それぞれ「椅子のない部屋」「出口の封鎖された公園」「坂の真ん中の我が家」と設定されていた三幕の原作を一幕に再構成し、ユーモアを散りばめつつ高度に抽象化された舞台は、地点の新境地を拓く作品として高く評価された。待望の京都初演！

あらすじ
粗末な紅白紐の結界によって区切られた舞台。中央に木造の猪牙(ちょき)舟。漁師・巫女・サラリーマン・女子高生・お母さん・お父さん・おじさん…。様々な日本人が現れ、奇妙な共同体は舟に乗り込む。行き場のない舟はやがて打ち捨てられ、台座を担ぎ、結界を侵して人々はさすらう。

作：松原俊太郎　　演出：三浦基
出演：安部聡子　石田大　小河原康二　窪田史恵　小林洋平　田中祐気　麻上しおり

地点 Chiten

演出家・三浦基が代表をつとめる。既存のテキストを独特の手法によって再構成・コラージュして上演する。言葉の抑揚やリズムをずらし、意味から自由になることでかえって言葉そのものを剥き出しにする手法はしばしば音楽的と評される。これまでの主な作品に、チェーホフ『かもめ』『三人姉妹』、ブレヒト『ファッツァー』、イェリネク『光のない。』『スポーツ劇』など。2005年、東京から京都へ移転。2013年には本拠地・京都に廃墟状態の元ライブハウスをリノベーションしたアトリエ「アンダースロー」を開場。レパートリーの上演と新作の制作をコンスタントに行なっている。2012年にロンドン・グローブ座からの依頼で初のシェイクスピア作品『コリオレイナス』を上演するなど、海外での評価も高い。http://chiten.org/

左：松原　右：三浦　　Photo: Hisaki Matsumoto

三浦基　Motoi Miura

地点代表、演出家。1973年生まれ。桐朋学園芸術短期大学演劇科・専攻科卒業。 1996年、青年団（平田オリザ主宰）入団、演出部所属。1999年より2年間、文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリに滞在する。2001年帰国、地点の活動を本格化。2005年、京都へ拠点を移す。著書に『おもしろければOKか？ 現代演劇考』（五柳書院）。2008年度京都市芸術文化特別奨励者。2010年度京都府文化賞奨励賞受賞。2011年度京都市芸術新人賞受賞。2017年読売演劇大賞選考委員特別賞受賞。

松原俊太郎　Shuntaro Matsubara

作家、雑誌『地下室』主筆。1988年熊本生まれ。神戸大学経済学部卒。地点『ファッツァー』で演劇と出会う。2015年、処女戯曲『みちゆき』が第15回AAF戯曲賞（愛知県芸術劇場主催）大賞を受賞。2017年4月、戯曲『忘れる日本人』が地点によりKAATにて上演。京都芸術センター主催「演劇計画Ⅱ」の委嘱劇作家として戯曲『カオラマ』第一稿を発表。雑誌「悲劇喜劇」（早川書房）2017年12月号に小説『またのために』を寄稿。

チケット情報

全席自由　　一般　前売3,500円　当日4,000円　学生　前売2,500円　当日3,000円　高校生以下　1,000円
[5月16日（水）一般発売開始]

主催：合同会社地点
製作：KAAT神奈川芸術劇場、合同会社地点
共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）　　後援：京都市（申請予定）

能楽チャリティ公演
～被災地復興、京都からの祈り～

共催

日程：8月23日（木）
第1部　10：30開演　第2部　18：30開演
会場：サウスホール

平成28年度「小鍛冶」

被災地の復興を支援するため、京都在籍の能楽師有志による
能楽チャリティ公演を昨年に引き続き開催します。

【第1部】
能「翁」（翁：片山九郎右衛門、三番三：茂山千三郎、千歳：橋本忠樹）
狂言「土筆」（シテ：茂山逸平）
能「葵上」（シテ：吉浪壽晃）

【第2部】
能「翁」（翁：井上裕久、三番三：茂山忠三郎、千歳：河村和晃）
狂言「舟船」（シテ：茂山千五郎）
能「小鍛冶」（シテ：大江泰正）

チケット情報
全席自由　1,500円［6月1日（金）一般発売開始］
※各部それぞれにご入場券が必要です

主催：京都在籍能楽師有志
共催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、国際交流基金京都支部

シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 vol.2 能楽『鷹姫』

主催

日程：2019 年 2 月 3 日（日）
会場：サウスホール

伝統芸能の継承と創造を目指すシリーズ第二弾は、“ 能 ” がテーマ

平成 29 年度から始まった伝統芸能の継承と創造を目指す新シリーズ「舞台芸術としての伝統芸能」。
2 年目となる平成 30 年度は、“ 能 ” をテーマに、「鷹姫」を舞台芸術バージョンとして上演。
上演後には、能楽師と専門家によるディスカッションも行います。

原作：W.B. イェーツ
能本作者：横道萬里雄
曲節作者：観世寿夫
演出：観世銕之丞
出演：観世銕之丞、片山九郎右衛門　ほか

鷹姫について

「鷹姫」は、アイルランド出身でノーベル賞作家の W. B . イェーツが、能に触発されて書いた舞踊劇「鷹の井戸」（1916）が原作。それを横道萬里雄が新作能として改作し翻案し「鷹の泉」とし、さらに自由な翻案が施された新しいバージョン「鷹姫」として観世寿夫が 1967 年に初演。以来現代も上演されている、外国人作家が原作の能。
フェノロサの能の訳本を読んだイェーツは、当時ケルト文化の復興を強く願っており、ケルトの神秘性と能の幽玄が似ている所に着目して戯曲「鷹の井戸」を書いたと言われている。

片山九郎右衛門　Kuroemon Katayama

観世流能楽師シテ方
片山幽雪（九世片山九郎右衛門・人間国宝）の長男。祖母は京舞井上流四世家元井上八千代（人間国宝）、姉は五世家元井上八千代（人間国宝）。父及び八世観世銕之丞（人間国宝）に師事。片山定期能楽会を主宰。全国各地で多数の公演に出演する他、ヨーロッパ、アメリカでの海外公演にも積極的に参加。また、学校公演及び学校における能楽教室の開催、「能の絵本」の制作、能舞台の CG 化など、若年層のための能楽の普及活動も手掛ける。
重要無形文化財（総合指定）保持者。京都府文化賞奨励賞、京都市芸術新人賞、文化庁芸術祭新人賞、日本伝統文化振興財団賞、京都府文化賞功労賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞。
公益社団法人京都観世会会長、公益財団法人片山家能楽・京舞保存財団理事長。 平成２３年１月に十世片山九郎右衛門を襲名。

チケット情報
調整中

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

レパートリーの創造
木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』（仮）

主催

日程：2019年2月10日(日)・11日（月・祝）
会場：サウスホール

ロームシアター京都 × 木ノ下歌舞伎「レパートリーの創造」第二弾
古来より脈々と語り継がれてきた名曲、物語を、“ 現代の異物 ” として観客へ引き放ち、わたしたちの生／性／聖を更新する、新たな音楽劇への挑戦

末永く地域で上演されるレパートリー作品を劇場が生み出すべく、アーティストとタッグを組む「レパートリーの創造」プログラム。昨年 10 月に『心中天の網島―2017 リクリエーション版―』を上演し、大きな反響を呼んだ木ノ下歌舞伎とのプロジェクト第二弾は、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT、KAAT 神奈川芸術劇場との三館共同製作で挑みます。
説教節「しんとく丸」や「愛護の若」を元にし、人形浄瑠璃、歌舞伎、文学、演劇と時代により形を変えながらも古来より脈々と語り継がれてきた名曲、物語を、木ノ下歌舞伎 × 糸井幸之介のタッグが、壮大なスケールをもった音楽劇として現代に紡ぎ直します。

「心中天の網島― 2017 リクリエーション版―」©Takuya Matsumi

あらすじ：河内国の大名高安通俊は、正妻を失った後、妻の侍女であった玉手を後妻としていた。この通俊には先妻の子である俊徳丸と、側室の子次郎丸という二人の息子があったが、年下の俊徳丸が正妻の子であるという理由で家を継ぐのを不服に思い、殺す計画を立てていた。ある日、俊徳丸は、玉手と共に摂津の住吉大社に参詣していた。参拝が終わると玉手は人払いをし、二人きりで俊徳丸に酒を振る舞う。と、突然玉手は俊徳丸に恋慕の心を打ち明けたのである。俊徳丸にとって玉手は血のつながりはないとはいえ、母である。玉手を拒み、その場を逃れた。住吉から帰ってのち、俊徳丸は癩病に侵されていた。病を悲観した俊徳丸は出家し、玉手の実家である合邦の元に匿われていた。そこに、玉手がやってきて…

作：菅専助、若竹笛躬
監修・補綴：木ノ下裕一
上演台本：糸井幸之介（FUKAIPRODUCE 羽衣）、木ノ下裕一
演出・音楽：糸井幸之介（FUKAIPRODUCE 羽衣）
企画制作：ロームシアター京都、木ノ下歌舞伎

© 東直子

木ノ下裕一　Yuichi Kinoshita
木ノ下歌舞伎主宰
1985 年和歌山市生まれ。小学校 3 年生の時、上方落語を聞き衝撃を受け、古典芸能への関心を広げていく。京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科で現代の舞台芸術を学び、2006 年に古典演目の現代的上演を行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。作品の補綴・監修という立場をとりつつ、様々な演出家とタッグを組みながら創作するスタイルをとっている。その他古典芸能に関する執筆、講座など多岐にわたって活動中。2014 年度よりセゾン文化財団ジュニアフェロー。2016 年に博士号（芸術博士）取得。平成 28 年度文化庁芸術祭新人賞受賞。平成 29 年度京都市芸術文化特別奨励制度奨励者。

糸井幸之介　Yukinosuke Itoi
1977 年東京生まれ。2004 年に女優の深井順子により旗揚げされた FUKAIPRODUCE 羽衣の全作品で作・演出・音楽・美術を手掛ける。全編の 7 割ほどを演者が歌って踊る、芝居と音楽を融合した独自の作風を “ 妙―ジカル “ と称し、唯一無二の詩的作品世界と、耳に残るオリジナル楽曲で高い評価を得ている。世田谷区芸術アワード “ 飛翔 ” 2008 年度舞台芸術部門受賞。FUKAIPRODUCE 羽衣第 22 回公演『瞬間光年』（2017 年上演）にて第 62 回岸田國士戯曲賞最終候補。多摩美術大学講師。

木ノ下歌舞伎　Kinoshita Kabuki
歴史的な文脈を踏まえつつ、現代における歌舞伎演目上演の可能性を発信する団体。あらゆる視点から歌舞伎にアプローチするため、主宰である木ノ下裕一が指針を示しながら、さまざまな演出家による作品を上演するというスタイルで、京都を中心に 2006 年より活動を展開している。主な上演作品として『黒塚』『三人吉三』『心中天の網島』『義経千本桜―渡海屋・大物浦―』『勧進帳』など。『黒塚』は 2015 年に 5 都市で再演、翌年にはパリ公演も成功させるなど、いずれの作品もレパートリーとしての上演にも力を注ぐ。2014 年に初演し、翌年再演した『三人吉三』で、読売演劇大賞 2015 年上半期作品賞にノミネート。2013 年『黒塚』CoRich 舞台芸術まつり！ 2013 春グランプリ受賞。2016 年『勧進帳』の成果において、木ノ下裕一が平成 28 年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。

チケット情報
全席指定　一般 3,500 円　ほか　［10 月下旬一般発売開始予定］

製作：ロームシアター京都
共同製作：穂の国とよはし芸術劇場 PLAT、KAAT 神奈川芸術劇場
主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

第４回 全国学生演劇祭 共催

日程：2019 年２月下旬
会場：ノースホール

全国学生演劇祭は、全国各地の演劇祭を勝ち抜いてきた学生劇団が京都に集結し、日本一を競う演劇の祭典です。ロームシアター京都にまだ見ぬ才能が集結する貴重な機会を、お見逃しなく！

はねるつみき『昨日を０とした場合の明後日』 撮影：松田ミネタカ

チケット情報

詳細は調整中

主催：全国学生演劇祭実行委員会
共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
後援：京都市（申請予定）

MONO『タイトル未定』 共催

日程：2019 年３月下旬
会場：ノースホール

京都を拠点に活動を続け、2019 年に結成 30 周年を迎える劇団の新作コメディ。

2017 年上演『ハテノウタ』舞台写真（撮影：井上嘉和）

MONO

1989 年立命館大学の学生劇団 OB であった土田英生を中心に結成。以降、京都を拠点に活動を続ける。現実の世界ではあり得ないだろう非日常の中で、まるで隣にいるかのような市井の人々がコンプレックスを抱えながら生きている。笑いを交えた会話の中から、時には個人的な時には社会的な問題が浮かび上がる―。その確立された手法は独特のものであると高く評価され、2009 年には文化庁芸術祭優秀賞を受賞。2017 年には大阪文化祭賞優秀賞受賞。

土田英生　Hideo Tsuchida

1967 年 3 月 26 日生まれ。愛知県出身
1989 年に「B 級プラクティス」（現 MONO）結成。1990 年以降全作品の作・演出を担当する。1999 年『その鉄塔に男たちはいるという』で第 6 回 OMS 戯曲賞大賞を受賞。2001 年『崩れた石垣、のぼる鮭たち』で第 56 回芸術祭賞優秀賞を受賞。2003 年文化庁の新進芸術家留学制度で一年間ロンドンに留学。劇作と並行してテレビドラマ・映画脚本の執筆も多数。その主な作品に映画『約三十の嘘』、『初夜と蓮根』、テレビドラマ『斉藤さん』シリーズなど。また、2017 年には小説『プログラム』(河出書房新社)を上梓。2018 年４月より脚本を手掛ける日本テレビ系テレビドラマ『崖っぷちホテル！』がスタートする。

チケット情報

調整中［2019 年 1 月一般発売開始予定］

主催：MONO
共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）　後援：京都市（申請予定）

『芒(のぎ)の植え付け』『踊り場・叩き場 / 田中泯 meets 中村達也』

共催

日程：6 月 8 日（金）19:00 開演
会場：サウスホール

身体という森羅万象を抱えて土に向かい、＜踊り＞と＜農業＞を同義語とする田中泯と、
巨と微を行き交い、＜時空＞を呼び起こすドラマーの中村達也の＜身体パフォーマンスと演奏＞の
10 年続くプロジェクトの新たな 2018 年プロジェクト。

出演：田中泯（踊り）　中村達也（ドラムス）

Photo: Hayato Araki

田中泯　Min Tanaka

ダンサー

1945 年生まれ。1966 年クラッシックバレエ、モダンダンスを学んだ後、1974 年から独自のダンス、身体表現を追求するようになる。本格的海外デビュー、パリ秋芸術祭『間―日本の時空間』展 (ルーブル装飾美術館)1978 年] をきっかけにし、ゆるやかで微細な動きで身体の潜在性を掘り起こすパフォーマンスは、ダンスをはるかに越えて、新しい芸術表現として衝撃をもたらした。一方、1985 年から今日に至るまで、山村へ移り住み農業を礎とした日常生活をおくることでより深い身体性を追求している。02 映画「たそがれ清兵衛」（山田洋次監督）初出演により、映像への出演も多く独自の演技力によって異彩を放っている。著書『僕はずっと裸だった』(工作舎)、『意身伝心』(春秋社)、写真集「光合成」MIN by KEIICHI TAHARA(スーパーラボ)。
www.min-tanaka.com

中村達也　Tatsuya Nakamura

ドラムス

1965 年 富山県生まれ。1981 年、名古屋でデビュー。その時代を担う多くのパンク、ニューウェーブバンドのドラマーとして活躍し上京。1990 年、かつての旧友 浅井健一に再会しブランキージェットシティーに参加。およそ 10 年間に渡りメジャーシーンで活躍。BJC 解散後の 2000 年以降になると、自身のバンド「LOSALIOS」の活動を本格的に始動。一方で、山下洋輔、ジョン・ゾーン、ビル・ラズウェル、近藤等則、大友良英等との、セッションも行う。更には田中泯、黒田征太郎とのドラム＋ダンス＋ライブペインティングという異種格闘技ライブにも挑戦。あらゆるアーティストたちの創作に対峙して、ドラムスの即興演奏を重ねて時間を表現する、音による「時空の切り取り」という新たなライブの在り方を模索していく。他に斉藤和義との「MANNISH BOYS」、「The Golden Wet Fingers」。「TWIN TAIL」などで活動中。また、映像作品にも多数出演しており、「BULLET BALLET」、「私立探偵濱マイク」、「蘇りの血」、「NHK 龍馬伝」、「野火」などで異端の俳優として出演している。http://www.nakamuratats

チケット情報

前売 4,000 円　当日 4,500 円
[4 月 12 日（木）一般発売開始]

主催：株式会社ビグトリィ
共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
後援：京都市（申請予定）

ロレーヌ国立バレエ団　トリプルビル

主催

日程：9月21日(金)・22日(土) 全2ステージ
会場：サウスホール

20世紀から21世紀の舞踊史を俯瞰する、フランスを代表するバレエ団のトリプルビル

『SOUNDDANCE』©LaurentPhilippe

ヨーロッパのコンテンポラリーバレエ界を牽引する、フランスのロレーヌ国立バレエ団によるトリプルビル公演。マース・カニンガム、ウィリアム・フォーサイス、セシリア・ベンゴレアとフランソワ・シェニョーという世界的に著名な3組の振付家のレパートリーを紹介することで、コンテンポラリーダンスの半世紀を俯瞰できる、魅力的なプログラムです。

上演作品
『SOUNDDANCE』　振付：マース・カニンガム
『STEPTEXT』　振付：ウィリアム・フォーサイス
『DEVOTED』　振付：セシリア・ベンゴレア＆フランソワ・シェニョー
出演：ロレーヌ国立バレエ団

『STEPTEXT』©ArnoPaul

『Devoted』© Arno Paul

マース・カニンガム　Merce Cunningham

ダンサー、振付家
アメリカ合衆国のダンサー、振付家。1937年、シアトルのコーニッシュ・スクールの生徒だったときにジョン・ケージと出会う。39年にはニューヨークへ移り、マーサ・グレアムのダンス・カンパニーに参加する。のちに自作の発表をはじめ、グレアムのカンパニーを脱退したのち、マース・カニンガム舞踏団を結成。ケージ、デイヴィッド・チューダー、ゴードン・ムンマ、小杉武久らと共同作業を行った。

ウィリアム・フォーサイス　William Forsythe

振付家
1984年、フランクフルト・バレエの芸術監督に就任。2004年のフランクフルト・バレエ解散後、「フォーサイス・カンパニー」を設立。2010年にはベネツィア・ビエンナーレ金獅子賞を受賞している。また、フォーサイスが手がけた作品は、マリインスキー・バレエ、ニューヨーク・シティ・バレエ、サンフランシスコ・バレエ、ロイヤル・バレエ、パリ・オペラ座バレエなど、世界の多くの主要カンパニーのレパートリーとなっている。

セシリア・ベンゴレア＆フランソワ・シェニョー　Cecilia Bengolea & François Chaignaud

セシリア・ベンゴレア（ダンサー／振付家）
ブエノスアイレス生まれ。ブエノスアイレス大学でダンス人類学および美学美術史を専攻。2001年よりパリ在住。2004年にマチルド・モニエが主宰するEx.e.r.ceに参加。
フランソワ・シェニョー（ダンサー／振付家）
レンヌ生まれ。パリ国立高等音楽・舞踊学校卒業。2003年以降、ボリス・シャルマッツ、エマニュエル・ユイン、ジル・ジョバン、チアゴ・グエド、アラン・バファードといった様々な振付家やダンサーらとコラボレーションしている。

チケット情報

全席指定　一般6,500円　ユース（25歳以下）4,000円　［6月16日（土）一般発売開始］

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

笠井叡振付『高丘親王航海記』 主催

日程：２０１９年１月１１日（金）・１２日（土）
会場：サウスホール

澁澤龍彦の文学作品を笠井叡が舞踊作品として創作
黒田育世、近藤良平ら人気コンテンポラリーダンサーを迎えての世界初演

文学作品「高丘親王航海記」（作：澁澤龍彦）を、振付家・笠井叡が舞踊作品として創作し、
ロームシアター京都で初演する。舞踏の創生期から活躍する笠井叡が、盟友の澁澤龍彦の原作をもって、
黒田育世、近藤良平といった実力、人気共にコンテンポラリーダンスを代表するダンサーを迎えての大作に挑む。

原作：澁澤龍彦
構成・演出・振付：笠井叡
出演：笠井叡、黒田育世、近藤良平、笠井瑞丈、岡本優、篠原くらら、上村なおか
BATIK ダンサー、天使館オイリュトミスト
美術：榎本了壱

澁澤龍彦　Tatsuhiko Sibusawa

作家、翻訳家
1928 ～ 1987 年。東京生まれ。本名龍雄。東京大学文学部フランス文学科卒業後、マルキ・ド・サドやジャン・コクトーらの著作を翻訳するかたわら、美術評論や中世の悪魔学などのエッセイ、独自の幻想小説など、幅広いジャンルで旺盛な執筆活動を展開した。

© 細江英公

笠井叡　Akira Kasai

舞踏家
1943 年生まれ。1960 年代に大野一雄、土方巽に出会い、舞踏家として活動を始める。1971 年に天使館を設立、多くの舞踏家を育成する。1979 年から 1985 年までドイツ留学し、ルドルフ・シュタイナーの人智学、オイリュトミーを研究。帰国後、1994 年に『セラフィータ』で舞台に復帰。2001 年初演『花粉革命』は代表作として世界各都市で上演を果たす。ソロ作品のほか、ジャンルを超えたアーティストとのコラボレーションにも積極的に取り組んでいる。

黒田育世　©Daisuke Miura

近藤良平　©HARU

チケット情報
全席指定　一般 4,000 円　ユース（25 歳以下）3,000 円　［10 月 13 日（土）一般発売開始］

共同製作：ロームシアター京都
主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

京都市交響楽団 京都 発見！クラシック Vol.8

主催

日程：5 月 31 日（木）11：00 開演
会場：メインホール

大友直人 ©T.Tairadatel

平日に毎回多彩なゲストをお迎えして、トークとオーケストラ演奏による 2 部構成でお贈りするコンサート。楽しいトークと共に自分流のクラシック音楽の楽しみ方を発見してみませんか？

指揮：大友直人 (京都市交響楽団桂冠指揮者)
管弦楽：京都市交響楽団
ゲスト：奥田瑛二（映画監督・俳優）
独奏（ヴァイオリン）：松田理奈

奥田瑛二

松田理奈 © 岡部太郎

大友 直人 (京都市交響楽団桂冠指揮者)　Naoto Otomo

桐朋学園大学を卒業。指揮を小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明、岡部守弘各氏に師事した。桐朋学園大学在学中から NHK 交響楽団の指揮研究員となり、22 歳で楽団推薦により NHK 交響楽団を指揮してデビュー。現在、群馬交響楽団音楽監督、東京交響楽団名誉客演指揮者、京都市交響楽団桂冠指揮者、琉球交響楽団音楽監督。また、2004 年から 8 年間にわたり、東京文化会館の初代音楽監督を務めた。在京オーケストラの定期演奏会にとどまらず、2012 年 3 月にはハワイ交響楽団のオープニングコンサートを指揮、以降定期的に客演し、同年 6 月にはロレーヌ国立管弦楽団の定期公演に客演、絶賛を博す。2013 年にはエネスク国際音楽祭に招かれ「弦楽八重奏 Op.7」を演奏。「繰り返し演奏されているが、今回の演奏は最高の演奏」「日本のオーケストラ演奏が西洋音楽への新しい希望を見出した」と評され、欧米での活躍にも大きな期待が寄せられている。2000 年「第 8 回渡邉暁雄音楽基金音楽賞」、2008 年「第 7 回齋藤秀雄メモリアル基金賞」受賞。

チケット情報

全席指定　2,000 円　［3 月 27 日（火）一般発売開始］

主催：京都市交響楽団、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

京都岡崎音楽祭 2018 OKAZAKI LOOPS タンブッコ・パーカッション・アンサンブル コンサート＆ワークショップ（仮）

主催

日程：6 月 23 日（土）・24 日（日）
会場：ノースホールほか

ロームシアター京都を中心とした文化ゾーン岡崎地域で繰り広げられる、京都岡崎音楽祭 2018「OKAZAKI LOOPS」の企画の一つとして開催する、メキシコのスーパー・パーカッション・アンサンブル「タンブッコ」によるコンサート＆ワークショップ。ホールでのコンサートのほか、小学生を対象とした事前のワークショップも予定しています。

© 青柳聡

主催：京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

現代芸術の会＝音楽の現在 音楽、言葉、表現が競い合うコンサート

共催

日程：9 月 29 日（土）15:00 開演
会場：サウスホール

前衛的な作曲家、演奏家、演出家、俳優が相互の専門領域を拡張することで作り上げるコンサート。
出演：原田節（オンド・マルトノ）、中川俊郎（ピアノ）、
一柳慧（作曲、ピアノ）、中川賢一（ピアノ）、三浦基（演出）、
劇団「地点」

Ⅰ部　原田節：不思議な楽器オンド・マルトノで聴く
Ⅱ部　三浦基：“ 地点語 ” の世界 ―声と音楽
Ⅲ部　一柳慧：進化する音楽

チケット情報

全席指定　一般 4,000 円　ペア 7,000 円
ユース（25 歳以下）2,000 円
［6 月 20 日（水）一般発売開始］

主催：現代芸術の会
共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
後援：京都市（申請予定）

平成30年度 新国立劇場
高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演
『魔笛』全２幕

主催

日程：10月29日（月）・31日（水）
各日 13:00開演
会場：メインホール

!" #$%&#() *+") ',(#./ (#Zauberflöte)!" #!$ %&%()*+ ,!- !. /01*"2,3!4*+25530(!67 21,0 8*/!9:&0 62<6 =+(82<52!>??@

「高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演」は高校生を対象に開催しています。平成30年（2018年）の公演では、モーツァルトの傑作『魔笛』を鑑賞教室公演で初めて上演します。“ジングシュピール”（歌芝居）として親しみやすいこの作品は、「おいらは鳥刺し」「パ・パ・パ」といった親しみやすい曲から、夜の女王の歌う有名なアリア「地獄の復讐はわが心に燃え」等、聴きどころが満載！新国立劇場で新制作上演されるウィリアム・ケントリッジ演出の舞台を、園田隆一郎指揮、日本を代表する一流の歌手陣と京都市交響楽団の演奏でお贈りします。

演目：モーツァルト作曲：「魔笛」（全２幕）

指揮：園田隆一郎
演出：ウィリアム・ケントリッジ
美術：ウィリアム・ケントリッジ、ザビーネ・トイニッセン
衣裳：グレタ・ゴアリス
照明：ジェニファー・ティプトン

合唱：新国立劇場合唱団
管弦楽：京都市交響楽団

ザラストロ：長谷川 顯　　タミーノ：鈴木 准
弁者・武士Ⅱ：成田 眞　　僧侶・武士Ⅰ：秋谷直之
夜の女王：安井陽子　　パミーナ：林 正子
侍女Ⅰ：増田のり子　　侍女Ⅱ：小泉詠子　　侍女Ⅲ：山下牧子
パパゲーナ：九嶋香奈枝　　パパゲーノ：吉川健一
モノスタトス：升島唯博　ほか

チケット情報

全席指定　2,160円（高校生のみ）　当日料金：2,160円（高校生以下）／4,320円（一般）
※高校生対象の公演のため、残席がある場合のみ、一般に当日券を販売します

主催：京都市、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場
助成：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
協賛：ローム株式会社

京都オペラ協会定期公演 ベッリーニ作曲
『カプレーティ家とモンテッキ家』全２幕（イタリア語上演／日本語字幕付き）

共催

日程：12月9日（日）14:00開演
会場：サウスホール

ベッリーニによる「ロミオとジュリエット」のオペラ版。13 世紀でのイタリアでの貴族間の争いごとをそのまま時代考証するのではなく、1920 年代のシカゴを設定した新演出。

チケット情報

全席指定　S席 8,000 円　A席 6,000 円　B席 4,00 0円　［発売日未定］

主催：京都オペラ協会　共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
後援：京都市（申請予定）

京響クロスオーバー「バレエ×オーケストラ」

主催

日程：2019 年 1 月 6 日（日）
会場：メインホール

オーケストラとバレエダンサーの競演によるオリジナルステージ！

京都市交響楽団が、世界で活躍する舞踊家中村恩恵と日本を代表するバレエダンサー首藤康之と共に繰り広げる、オリジナルのステージをお送りします。

出演：首藤康之
　　中村恩恵
　　林田翔平（スターダンサーズ・バレエ団）
　　渡辺理恵（東京バレエ団）
　　全京都洋舞協議会（予定）
演出・振付：中村恩恵
指揮：下野竜也
（京都市交響楽団　常任首席客演指揮者）
オーケストラ：京都市交響楽団

下野竜也
©Naoya Yamaguchi

© 阿部稔哉

首藤康之　Yasuyuki Shuto

舞踊家
15 歳で東京バレエ団に入団。19 歳で「眠れる森の美女」の王子役で主役デビュー。その後「白鳥の湖」「ジゼル」などの古典作品をはじめ、モーリス・ベジャール振付「春の祭典」「M」「ボレロ」ほか、ジョン・ノイマイヤー、イリ・キリアンなどの世界的現代振付家の作品に数多く主演。また、マシュー・ボーン演出・振付「SWAN LAKE」にスワン / 王子役で主演、高く評価される。
2004 年に退団後は、ジョー・カラルコ、シディ・ラルビ・シェルカウイ、小野寺修二、ウィル・タケット、串田和美、白井晃、長塚圭史など、国内外の振付家、演出家の作品に多数出演するほか、自らプロデュースするシリーズ『DEDICATED』を KAAT 神奈川芸術劇場にて上演。
海外での活躍も多く、ドイツ・デュッセルドルフにて、ピナ・バウシュが芸術監督を務めた NRW 国際ダンスフェスティバル、ダブリン国際ダンスフェスティバルなど数多く出演。近年では、自身のドキュメンタリー映画「今日と明日の間で」(小林潤子監督)、「岸辺の旅」、(黒沢清監督)、日曜劇場「99.9—刑事専門弁護士—」、渋谷・コクーン歌舞伎「四谷怪談」に出演するなど表現の場を拡げている。
第 42 回舞踊批評家協会賞 、第 62 回芸術選奨文部科学大臣賞など受賞多数。

© 大河内禎

中村恩恵　Megumi Nakamura

舞踊家・振付家
第 17 回ローザンヌ国際バレエコンクールにてプロフェッショナル賞を受賞後、モンテカルロバレエ団を経て、イリ・キリアン率いるネザーランド・ダンス・シアターに所属し活躍。退団後はオランダを拠点に活動し、「Dream Window」で Golden Theater Prize を受賞。彩の国さいたま芸術劇場にて、キリアン振付「ブラックバード」を上演、ニムラ舞踊賞受賞。07 年に日本へ活動の拠点を移した後も、ダンサーと振付家の活動を両立し、新国立劇場バレエ団、K バレエカンパニー、Noism07、エルヴェ・モロー（パリ・オペラ座バレエ団　エトワール）などに作品を提供。
首藤康之との創作活動も積極的に行っており、「Shakespeare THE SONNETS」、「UNE PETITE MASION」（新国立劇場）など多くの作品を上演する。
また、2016 年より新国立劇場バレエ団「DANCE to the Future 」のアドヴァイザーとして Choreographic Group の指導を担当。キリアン作品のコーチも務め、パリ・オペラ座をはじめ世界各地のバレエ団や学校の指導にあたる。第 61 回芸術選奨文部科学大臣賞、第 62 回横浜文化賞、第 31 回服部智恵子賞など受賞多数。

チケット情報

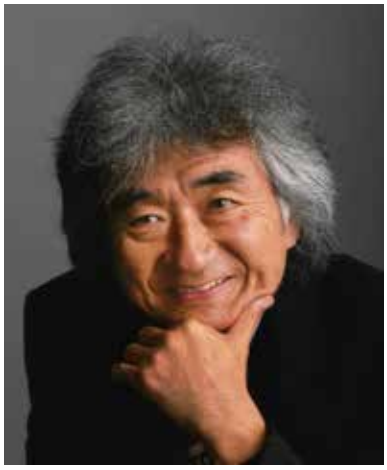
全席指定　S 席 5,500 円　A 席 4,500 円　B 席 3,500 円　C 席 3,000 円　ユース S 席・A 席とも 500 円引き　［発売日未定］

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXVII　京都公演

主催

日程：2019年3月
会場：メインホール



©Shintaro Shiratori

世界的な指揮者である小澤征爾が、自らの音楽経験を後進の若手音楽家に伝えることを目的に、2000 年に立ち上げた教育プロジェクトによるオペラ公演です。日本ほかアジア諸国でのオーディションで選ばれる若手音楽家たちで結成するオーケストラと、一流の出演者・制作陣によって、高水準のオペラを制作します。また、一般向けの公演だけでなく、京都府内の小学生を対象にした、「子どものためのオペラ」公演も開催します。

主催：小澤征爾音楽塾／ヴェローザ・ジャパン、京都市、
　　ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）
企画・制作：ヴェローザ・ジャパン
共催：公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション
協賛：ローム株式会社

チケット情報

調整中

【小澤征爾音楽塾 これまでの公演】
2000 年　小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅠ　モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」全４幕
2001 年　小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅡ　モーツァルト：歌劇「コシ・ファン・トゥッテ」全２幕
2002 年　小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅢ　モーツァルト：歌劇「ドン・ジョヴァンニ」全４幕
2003 年　小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅣ　J. シュトラウスⅡ世：喜歌劇「こうもり」全３幕
2004 年　小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅤ　プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」全４幕
2005 年　小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅥ　ロッシーニ：歌劇「セビリャの理髪師」全２幕
2006 年　小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅦ　グスタフ・マーラー交響曲第２番「復活」
2007 年　小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅧ　ビゼー：歌劇「カルメン」全４幕
2008 年　小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅨ　J. シュトラウスⅡ世：喜歌劇「こうもり」全３幕
2009 年　小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトⅩ　フンパーディンク：歌劇「ヘンゼルとグレーテル」全３幕
2012 年　小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XI　プッチーニ：歌劇「蝶々夫人」全２幕
2013 年　小澤征爾音楽塾　オーケストラ・プロジェクトⅡ
2014 年　小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XII　モーツァルト：歌劇「フィガロの結婚」全４幕
2015 年　小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XIII　ラヴェル：歌劇「子どもと魔法」※「子どものためのオペラ」も開催
2016 年　小澤征爾音楽塾オペラ･プロジェクト XIV　J. シュトラウスⅡ世:喜歌劇「こうもり」全３幕（制作拠点:ロームシアター京都）
　　※「子どものためのオペラ」も開催
2017 年　小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XV　ビゼー：歌劇「カルメン」（制作拠点：ロームシアター京都）
　　※「子どものためのオペラ」も開催
2018 年（3 月 16 日、18 日開催）　小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクト XVI　プッチーニ：歌劇「ジャンニ・スキッキ」
　　ラヴェル：歌劇「子どもと魔法」（制作拠点：ロームシアター京都）
　　※「子どものためのオペラ」も開催（3 月 13 日）

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2018

日程：10月6日（土）～28日（日）
会場：サウスホール、ノースホール、パークプラザ、京都芸術センター、京都芸術劇場 春秋座　ほか

KYOTO EXPERIMENT 2018
京都国際舞台芸術祭
Kyoto International Performing Arts Festival

2010年にスタートして以来、世界各地の先鋭的な舞台芸術を紹介してきた京都発の国際舞台芸術祭の第９回目。国内外のアーティストと共に作品を製作する「創造するフェスティバル」として、新作を積極的に紹介し、「創造」と「交流」の実験の場として、国際的な舞台芸術のプラットフォームとなることを目指します。
詳細は2018年４月発表予定！ https://kyoto-ex.jp/

主催：京都国際舞台芸術祭実行委員会［京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター］

ロームシアター京都×京都芸術センター U35 創造支援プログラム “KIPPU”

参加団体：①ブルーエゴナク
②安住の地　③akakilike

日程：①12月中旬
②2019年1月中旬
③2019年２月中旬
会場：ノースホール

次代を担う若手アーティストが京都から羽ばたく！新たな創造支援プログラムが始動。

ロームシアター京都では、京都芸術センターと協働し、若手アーティストの発掘と育成を目的とした新たな制作支援プログラムを開始します。
本プログラムでは、創作に専念できるスタジオ（京都芸術センター 制作室）と、舞台設備・技術の備わった劇場（ロームシアター京都ノースホール）の提供を通じて、150～200名の規模の作品づくりに挑戦する若手アーティストを募集し、新たな才能が京都から国内外へ羽ばたくことを期待しています。
初年度となる今回は、今後の活躍が期待される３組を選出。 若いアーティストが、いま何を考え、どのような表現に挑むのか、ぜひご注目ください。

チケット情報

調整中

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、京都市
※上記は企画の主催クレジットとなります。各公演は、主催：参加団体、共催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都芸術センター（公益財団法人京都市芸術文化協会）、後援：京都市（申請予定）で開催します。

プレイ！シアター in Summer 主催

日程：8 月 14 日（火）、15 日（水）
会場：全館

今年も開催！家族や友達と楽しめるロームシアター京都の夏休み特別企画

この日だけの特別な劇場ツアー、子ども向けワークショップ、演奏パフォーマンス、マルシェ…など、
“ 気軽に遊べる劇場 ” として、子どもから大人まで満喫できる盛り沢山の 2 日間。ご家族、お友達を誘って
ロームシアター京都にお越しください！
参加アーティスト：ユリイカ百貨店、トナカイサインズ、康本雅子ほか

©Takuya Matsumi

チケット情報
無料、予約不要
※ただし一部有料企画を調整中

アクラム・カーン振付『Chotto Desh』

日程：8 月 11 日（土）15:00 開演、12 日（日）11:00 ／ 15:00 開演
会場：ノースホール
大人も子どもも楽しめる舞台。映像を効果的に使って幻想的な世界を描き出します。

チケット情報
全席自由　一般 2,500 円
子ども（18 歳以下）1,000 円
[6 月 16 日（土）一般発売開始]

主催：ロームシアター京都
（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、
京都市

ロームシアター京都×京都市文化会館５館連携事業

主催

地域の課題を考えるプラットフォーム CIRCULATION KYOTO ー 劇場編（仮）

日程：12月1日（土）～2019年3月24日（日）
会場：京都市東部文化会館、京都市呉竹文化センター、京都市西文化会館ウエスティ、京都市北文化会館、京都市右京ふれあい文化会館　ほか

“ 京都ローカル ” の姿を探るプロジェクト２年目は、
「人々が集う場」としての劇場をメディアと捉え、５組のアーティストが新作を発表
まちが「劇場」をつくり、「劇場」がまちを象る。文化会館を巡りながら京都のまちを体感する４カ月！

遠山昇司

花房観音

円居挽

きたまり

相模友士郎

中野成樹＋フランケンズ

村川拓也

異なる他者をつなぐもの＝「メディア」としてローカルメディアの概念を拡張して捉え直し、京都の５つの地域の歴史性、特徴に根ざしたメディアを考案することに挑んだ CIRCULATION KYOTO（サーキュレーションキョウト）。２年目は、京都にある５つの文化会館のホール＝「人々が集う場」としての劇場をメディアとして捉え、５組のアーティストが参加。それぞれのアーティストが各文化会館の地域を出発点に創作し新作を連続して発表、独自の切り口と方法論で京都という都市のすがたを象ります。同時に、地域社会における劇場の役割、可能性を改めて考えるプロジェクトになるでしょう。

参加アーティスト：きたまり、相模友士郎、遠山昇司 × 花房観音 × 円居挽、中野成樹＋フランケンズ、村川拓也
エディトリアル・ディレクター（遠山昇司 × 花房観音 × 円居挽）：影山裕樹

チケット情報

調整中［10月上旬一般発売開始予定］

企画製作：ロームシアター京都
主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団（ロームシアター京都、京都市東部文化会館、京都市呉竹文化センター、京都市西文化会館ウエスティ、京都市北文化会館、京都市右京ふれあい文化会館）、京都市　　助成：一般財団法人地域創造

きたまり　Kitamari

振付家、ダンサー。1983年生まれ。京都市在住。京都造形芸術大学 映像・舞台芸術学科 在学中の2003年よりダンスカンパニー「KIKIKIKIKIKI」主宰。出演者のブログから映画、伝統芸能、クラシック音楽まで、あらゆる素材からダンスを創作するカンパニーでの作品上演に加え、多田淳之介、木ノ下歌舞伎、ディディエ・ガラスなどジャンルを越境した共同制作を国内外で積極的に展開。また、「Dance Fanfare Kyoto」など、ダンスシーンの活性化や舞台芸術における身体の可能性を追求するプロジェクトも多数開催する。08年トヨタコレオグラフィーアワード「オーディエンス賞」受賞、10年横浜ダンスコレクション R 2010「未来へはばたく横浜賞」受賞、16年 文化庁芸術祭「新人賞」受賞。

相模友士郎　Yujiro Sagami

演出家。1982年福井生まれ、福井市在住。2009年に伊丹に住む70歳以上の市民との共同制作舞台『DRAMATHOLOGY ／ドラマソロジー』を発表し、翌年フェスティバル／トーキョーに正式招聘され高い評価を得る。12年にダンス作品『天使論』を TPAM in YOKOHAMA2012 にて発表、各地で再演を重ねる。最近の作品に、『スーパーインポーズ』（16年／まつもと市民芸術館、福井市文化会館）、ダンサーの佐藤健大郎との共同制作による『ナビゲーションズ』(14年～) など。様々なコミュニティの中に入り込み、そこにいる人々と共同しながら、見るという身体的経験を問い直すような舞台作品を発表している。

＜遠山昇司 × 花房観音 × 円居挽＞

遠山昇司　Shoji Toyama

映画監督、プロデューサー。1984 年熊本生まれ。東京都在住。2012 年、初の長編フィクション映画『NOT LONG、AT NIGHT - 夜はながくない - 』が第 25 回東京国際映画祭＜日本映画・ある視点部門＞に正式出品され、高い評価を得る。精力的に映画制作を行いながら、舞台作品･エキシビション･アートプロジェクトなどの企画･プロデュースを手がける。2013 年に熊本県津奈木町の海に浮かぶ旧赤崎小学校でスタートしたアートプロジェクト『赤崎水曜日郵便局』では、ディレクター・局長を務め、2014 年度グッドデザイン賞を受賞。

円居挽　Ban Madoi

小説家､推理作家。1983 年奈良県生れ。大阪市在住。京都大学卒業、京大推理小説研究会出身。2009 年､「丸太町ルヴォワール」（講談社）で長編デビュー。その後、「烏丸ルヴォワール」、「今出川ルヴォワール」､「河原町ルヴォワール」と京都の中心地を舞台にしたミステリー「ルヴォワール」シリーズを次々と発表。新進気鋭のミステリー作家として注目を集める。その他著書に､『シャーロック・ノート』『京都なぞとき四季報　町を歩いて不思議なバーへ』『日曜は憧れの国』などがある。

花房観音　Kannon Hanabusa

小説家､バスガイド。1971 年兵庫県豊岡市生まれ。京都市在住。2010 年、第一回団鬼六賞大賞を京都の和菓子屋を舞台にした「花祀り」（幻冬舎文庫）にて受賞。五山の送り火を題材にした「女の庭」（幻冬舎文庫）、京都の旧遊郭に生きる女たちを描いた「楽園」（中公文庫）、都の豪奢や屋敷で起こる怪異連作集「鬼の家」（角川書店）など性愛、ホラー、怪談、時代小説などを多数執筆。京都観光文化検定２級を所持する現役のバスガイドでもあり、小説以外にも「おんなの日本史修学旅行」「愛欲と情念の京都案内」などの歴史、京都関係の著作がある。

影山裕樹　Yuki Kageyama

1982 年東京生まれ、早稲田大学第二文学部卒業後、雑誌編集部、出版社勤務を経て独立。アート、カルチャー書のプロデュース・編集、雑誌やウェブ媒体での執筆活動の他、展覧会やイベントの企画・ディレクションなど幅広く活動を行なっている。2018 年、合同会社 千十一編集室を設立。著書に『大人が作る秘密基地』（DU BOOKS）､『ローカルメディアのつくりかた』（学芸出版社）などがある。近年の主な仕事に、「十和田奥入瀬芸術祭」（2013）エディトリアル・ディレクション、「CIRCULATION KYOTO」（2017）プロジェクト・ディレクター、ウェブマガジン「EIDT LOCAL」（2017-）企画制作など。青山学院女子短期大学非常勤講師。

中野成樹＋フランケンズ　Shigeki Nakano + frankens

演出家・中野成樹が率いる日本の現代演劇カンパニー。東京を拠点に活動中。時代・文化風習等が現代日本と大きく異なる、いわゆる「翻訳劇」をとりあげ、「いまの自分たちの価値観と身体」で理解し体現する。逐語訳にとらわれない翻訳、あらすじのみを死守する自由な構成、従来のイメージやマナーにとらわれぬ私たちの物語としての作品解釈､その方法･表現を｢誤意訳｣と名付け､シェイクスピア､モリエール､チェーホフ、ブレヒト、別役実、等多くの作家を扱っている。またそのほか、動物園、美術館、まちなかなど、劇場外での " 応用演劇活動 " も積極的に展開。2017 年には、千葉・松戸のまちなかに散らばる会場を観客が移動し、現代の捕物帳を目撃する「半七半八（はんしちきどり）」（フェスティバル / トーキョー 17）を発表、評判を呼んだ。

村川拓也　Takuya Murakawa

演出家。1982 年岐阜生まれ。京都市在住。ドキュメンタリーやフィールドワークの手法を用いた作品を、映像・演劇・美術など様々な分野で発表し、国内外の芸術祭、劇場より招聘を受ける。１人のキャストとその日の観客１人を舞台上に招き、介護する／されることを舞台上に再現する『ツァイトゲーバー』（2011 年）、村川から事前に送られてきた手紙（指示書）に沿って舞台上の出演者が動く『エヴェレットゴーストラインズ』（2013 年）などの作品群は、虚構と現実の境界の狭間で表現の方法論を問い直すだけでなく、現実世界での生のリアリティとは何かを模索する。16 年には､文化庁東アジア文化交流使（文化庁）として中国･上海、北京に滞在した。

ロームシアター京都　リサーチプログラム

日程：7 月～ 2019 年 3 月

プログラム策定のためのリサーチ、舞台芸術に関わる研究・批評分野と実践の場をつなげる若手人材の育成を目的に、リサーチプログラムを実施します。リサーチテーマは、2017 年度に引き続き、「古典芸能と現代演劇」と「子どもと舞台芸術」を予定しています。
リサーチャー募集開始時期：４月下旬
メンター：吉岡洋（京都大学こころの未来研究センター特定教授）、若林朋子（立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科特任准教授、プロジェクト・コーディネーター）

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

吉岡洋（京都大学こころの未来研究センター特定教授）

京都大学文学部・同大学院修了（美学芸術学）。甲南大学、情報科学芸術大学院大学 (IAMAS) を経て、現在京都大学こころの未来研究センター特定教授。著書に『情報と生命』（新曜社、1993 年）、『〈思想〉の現在形』（講談社、1997 年）など。

若林朋子（立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科特任准教授、プロジェクト・コーディネーター）

英国ウォーリック大学院文化政策・経営学修士課程修了。1999 ～ 2013 年（公社）企業メセナ協議会勤務。2013 年よりフリーランスとなり、各種事業や企画立案のコーディネート、執筆、編集、調査研究、評価、自治体の文化政策や NPO の運営支援等に取り組む。

「いま」を考えるトークシリーズ

日程：通年（全４回予定）

多様な角度から同時代の社会を知り、捉え直すためのトピックを挙げ、それにまつわるゲストを招きます。複雑化し、混迷する現代を「いかに生きるべきか」。その手掛かりを探り、ともに考えるトークシリーズです。

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市

ロームシアター京都×京都市ユースサービス協会連携事業
未来のわたし－劇場の仕事

日程：前期（夏）、後期（冬）予定

劇場の現場に興味のある若者を対象に、劇場の仕事の一部を紹介し、体験してもらうプログラムです。前期は子どもも大人も楽しめる「プレイシアター」を、後期は木ノ下歌舞伎と取り組む「レパートリーの創造」を題材に、参加者一人ひとりの関心や将来像に寄り添いながら、「劇場の仕事」をレクチャーと実践で紐解きます。

主催：ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、
公益財団法人京都市ユースサービス協会、京都市

ロームシアター京都　賑わいスペース事業

ロームシアター京都が位置する京都岡崎エリアは、東山を望む景観、琵琶湖疏水、美術館、動物園、寺院・寺社など多彩な文化資源を擁しています。
そうした京都岡崎エリアの賑わいの中心として、ロームシアター京都は、ホールでの催物に加え、日常的にさまざまなサービスやイベントを展開しています。観劇を目的とした方だけでなく、近隣にお住まいの方や観光客の方など、多くの人々の生活や文化芸術と地域のつながりを大切にしています。

パークプラザには、飲み物を飲みながら読書や勉強などができるブック＆カフェ（京都岡崎 蔦屋書店／スターバックスコーヒー）。終演前後の語らいを楽しむことのできるレストラン（京都モダンテラス）があります。
岡崎公園とつながるローム・スクエアは、マルシェなどの野外イベントや芸術作品の展示などを通じて、子どもから大人まで楽しめる空間となります。冷泉通と二条通をつなぐプロムナードは誰もが自由に通り抜けることができますので、総合案内・チケットカウンターやキオスク（ファミリーマート）に気軽にお立ち寄りいただけます。

京都岡崎 蔦屋書店／スターバックスコーヒー

京都モダンテラス

ローム・スクエア　撮影：小川重雄

ロームシアター京都という場所は、多彩な事業やサービスの提供を通じ、世代・趣味趣向・ライフスタイルを越えた多様な人々の出会い・交流・対話を生み出している“広場”といえます。そしてそのような場で生まれる営みの蓄積に引き寄せられて、様々な人々が日常的かつ継続的にロームシアター京都に足を運ぶというサイクルが生まれていきます。

こうした劇場のあり方は、京都という歴史と文化の積み重なった地において、大きな時間の流れ（歴史）に市民がそれぞれを位置づけていく契機ともなります。ロームシアター京都が、文化を受け継ぐ拠点となり、新たなトラディション（伝統）を創り出していく。このような劇場のあり方は、ロームシアター京都が目指す「劇場文化をつくる」というコンセプトの実現に至るひとつの道筋であり、これまでにない新しい劇場のあり方にもなりえるものです。

ロームシアター京都の誕生

これまで 50 年間にわたり“ 文化の殿堂 ”として親しまれてきた「京都会館」は、2016 年（平成 28 年）1 月 10 日に「ロームシアター京都」としてリニューアルオープンしました。

■京都会館の誕生

1960 年 4 月 29 日、全国に先駆けた多目的な公立文化ホールとして、京都・岡崎の地に京都会館は誕生しました。設計を担ったのは、日本を代表する建築家である故前川國男氏です。京都会館は岡崎地域の周辺環境との調和を考慮し、水平線を強く意識した意匠で設計され、日本建築学会賞を受賞するなど、「モダニズム建築の傑作」として高い評価を受けています。

京都会館　外観

■再整備基本計画

開館から 50 年あまり経ち、施設全般の老朽化やホール機能の前近代化など、利用者や来場者のニーズに応えられない状況となってきました。こうした事態に直面し、京都市では 10 年間近くにわたり京都会館の再整備に向けた検討を重ね、2011 年６月に「京都会館再整備基本計画」を策定しました。

＜基本方針＞
・既存の建物価値を継承し、公共ホールとして建物を再生する。
・「文化の殿堂」として多様な利用ニーズに応えるよう機能向上を図る。
・岡崎地域の活性化や魅力の保全・創出を牽引する機能導入や環境整備を進める。

京都会館　第一ホール

■建物価値の継承

再整備を行うに当たっては、現在の岡崎地域の風致・景観の向上に寄与するとともに、日本を代表するモダニズム建築として評価の高い京都会館の建物価値を検証し、実施する基本設計に反映するため、京都会館の建物価値継承に係る検討委員会を設置しました。基本設計は、現在の日本を代表する建築家の一人である香山壽夫氏です。2012 年 6 月に、基本計画に基づき、同委員会からの提言を踏まえた、「京都会館再整備基本設計」を取りまとめました。

■ロームシアター京都としての出発

再整備事業の取組を進めるなか、京都に本社を持つローム株式会社にご協力いただけることとなり、2011 年 9 月に「京都会館の命名権に関する契約」を締結し、この命名権対価を利用して再整備を進めることとなりました。こうして、これまで 50 年間にわたり「文化の殿堂」として親しまれてきた「京都会館」は、2016 年 1 月 10 日に「ロームシアター京都」として生まれ変わりました。
ロームシアター京都は、舞台芸術公演を行う３つの多目的ホールに加え、賑わいを創出する施設を備えた公立文化施設です。国内外の大規模公演が可能な約 2000 席のメインホール、舞台と客席の距離が近く一体感が得られる約 700 席のサウスホール、小劇場やリハーサル室としての利用に適した 200 人規模のノースホール、ブック ＆ カフェ（京都岡崎 蔦屋書店）、レストラン（京都モダンテラス）、ミュージックサロン（音楽総合体験施設）を備えるパークプラザ、野外スペースとして活用できるローム・スクエアなど、多彩な文化活動を幅広く支え、すべての人に憩いの場を提供するための多様なニーズに対応。「劇場のある空間」を中心として、人々の暮らしの感覚と芸術とが相互に繋がり、京都に新しい「劇場文化」を形づくります。

ロームシアター京都

敷地面積	13,671.50 ㎡
構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨鉄筋コンクリート造　他
階数	地上 6 階、地下 2 階建て
建築面積	8,067.84 ㎡
延べ面積	21,049.18 ㎡
施工期間	2013 年 9 月～ 2015 年 8 月
基本設計者・監修者	（有）香山壽夫建築研究所　香山壽夫
施工者	大林・藤井・岡野・きんでん 東洋熱工業特定建設工事共同企業体